

今日のキーワード「今年の漢字」は“税”（日本）

「今年の漢字」は、公益財団法人日本漢字能力検定協会（以下、漢検）が毎年年末に発表するその年の世相を表す一文字の漢字です。漢検が全国から候補を募集し、応募数1位の漢字を「漢字の日（12月12日）」に京都の清水寺で発表します。1995年から続いており、社会、経済、政治などの世相を振り返る年末の風物詩になっています。「今年の漢字」は、漢検の登録商標です。

ポイント1

“税”について考えさせられた年

“税”は政財界で広く話題に

- 全国から167,613票の応募があり、8,679票を獲得した“税”が1位になりました。2014年4月に消費“税”率が17年ぶりの引き上げで5%から8%に変更され、国民の生活に大きな影響を与えたことが背景です。
- 消費“税”率の引き上げ前には、日用品などの買いためや、自動車や家電製品など高額商品の駆け込み消費などが見られました。消費“税”率の引き上げ後には、反動で消費が落ち込んだほか、公共交通機関や光熱費の上昇などにもつながり、家計の“税”負担が増しました。
- また、“税”金の活用を決める国会議員や県議会議員の政治と金を巡る問題が頻発したこともあり、増“税”による生活への影響とともに、“税”の使い道なども話題になったことも背景と見られます。

ポイント2

世相の明暗としては中立的

景気の好展が世相悪化に歯止め

- 前回消費“税”が3%から5%に引き上げられた1997年には、“倒”という暗い世相を表す漢字が1位になりました。今回“税”そのものが選ばれたことは、世相の明暗としては中立的だったと言えます。
- 安倍内閣は、増“税”により財政の再建を図る一方、経済政策の基本を3本の矢と表現し、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を通じた経済の活性化に取り組んでいます。このアベノミクスは、一部で効果をあげているとの評価もあり、世相の悪化を抑えたと考えられます。



今後の展開

再増“税”の2017年4月までに効果発現に期待

■再増“税”先送りで、景気の立て直しが急務

安倍首相は2015年10月に予定していた消費“税”の再増“税”を2017年4月に延期することを発表しており、それまでに景気を立て直すことが急務です。

■政権長期化により、アベノミクスの成功に期待

政府・与党連合は、こうした“税”を巡る方針も示した上で総選挙に臨み、全議席数の3分の2以上を確保しました。今後は、政権の長期化でアベノミクスによる成長戦略が成功し、景気が回復軌道に乗ることが期待されます。

ここもチェック!

2014年12月16日 改善が足踏みする「日銀短観」(日本)

2014年12月15日 総選挙結果と市場動向 与党勝利で安倍政権長期化の可能性が高まる

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。